

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1090300250		
法人名	わたらせライフサービス		
事業所名	グループホーム・仲町の家		
所在地	桐生市仲町1丁目13-33		
自己評価作成日	平成28年10月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	平成28年11月24日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

和気合い合いとした雰囲気、ご利用者と職員が生活を通して信頼できる関係作りをしている。周辺散歩に加え、一日2回の体操と1回の口腔ケア体操を実施し、身体機能の低下の防止と残存機能の維持増進に努めている。又、年間行事に生活感、季節感を味わえる様、お花見、祭、神事、誕生会などの行事を行っている。食事は毎回の3食や季節料理(お節、ぼた餅、きのこ汁、クリスマスケーキ等)もご利用者と一緒手作りしている。菜園やグリーンカーテンで収穫した野菜も食卓に供し、旬の味わいを楽しんで頂いている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は、利用者にとっても職員にとっても、地域で認められ信頼されることが、安心して生活できる要であると考え、地域との交流を積極的に行っている。事業所主催の運動会・市の出前講座等を案内し、地域の方々が多く参加している。防災訓練にも地域の方々の協力が得られている。菜園から採れた野菜を近所の方々に配るなど、地域の方々との結びつきが段々と進展してきている。利用者の各居室は、職員が本人や家族に働きかけ、安心・快適に過ごせる部屋作りを支援している様子がかがえる。筆筒・椅子・ソファ・テレビ等の家具・家電の他、身の回りの物、趣味の品々が持ち込まれている。家具類は和風、洋風など様々なデザイン、馴染みの物、新品の物もあり、本人の好み、「この部屋で快適に暮らして欲しい」との家族の思いが伝わってくる設えとなっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念：(笑顔で過ごすぬくもりを感じる普通の暮らし)を掲示し、朝の引継ぎ時に職員全員で唱和し共有している。又、理念に基づいたケアになるか否かを検討し実践につなげている。	毎朝、職員で理念を唱和している。会議の時に理念に反したケアをしていないか、話し合っている。理念である利用者の笑顔が増える支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板を利用者と一緒に届けたり散歩時に挨拶を交わしている。運動会・防災訓練・出前講座に地域の方の参加を頂いている。菜園の野菜を近所にお配りしている。	町内会に加入している。事業所の行事(運動会に9名、市の出前講座に13名、防災訓練に3名)に地域住民が参加している。菜園の野菜を近所に配る等、地域との交流を広めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム開催の市の出前講座(元氣おりおり体操)に町内会の方13名に参加を頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に開催しており、利用者状況・サービスの実績・外部評価結果を報告し、出席委員やご家族の意見などを頂いている。	家族・市担当者・町会長・民生委員・嘱託医が出席し年6回開催されている。事業所から現状・活動報告がされ、市や町会長より情報を得て意見交換がされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者に運営推進会議に出席を頂いている。分からないことはその都度電話をし、アドバイスを頂いている。	管理者が利用者の入居数の現状報告や相談事等に市に出向いている他、電話でもその都度相談し、アドバイスを頂いている。又、ケアマネジャーも介護保険の申請代行に市に行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者が施設から外に出る際に、自ら鍵を開けられない様、表玄関の鍵を外側にし常時施錠するようにした。利用者様の事故防止のための拘束は最小限にする様努めている。	玄関、内扉は開錠されている。表門は施錠している。デッキは状況により開閉し、利用者の椅子からのずり落ち防止の為に家族の許可を得て、一時的に拘束帯を使用した。現在はしていない。	表門は慣れていないと開けるのが難しい。気軽に入れない雰囲気となっている。新規入居者の状態を見守る中で、工夫を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者ご家族より虐待と疑われた事例があった。職員・理事との各個人面談や会議の場で確認した結果、ご家族への説明不足や誤解を招く言動があった。その後、ご家族への説明をすると共に記録に残すよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は地域福祉権利擁護事業や青年後見制度について学び、必要な方が制度を活用できる様取組む姿勢がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の説明は書面を以って説明し納得と同意を頂いた上で同意書にサインを頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している他、ご家族面会時には職員がお茶を差し上げながら意見・要望等を伺うようにしている。	管理者が家族の面会時に、直接、家族の意見を聞いている。遠方の家族には、「たより」を郵送している。本人から直接要望が出され、居室を変更したケースもある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の定例会議を開催し、職員の意見を会議案として取り上げ検討し、運営に反映している。	月1回の定例会議において、正職員・パート職員全員参加で、意見を出し合っている。職員からは意見を言いやすい雰囲気と感じられ、活発な意見交換がされ、それが運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者及び個々の職員と面談し、現場の実情を把握し、夜勤・早番・遅番手などを改善している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時は1日掛けて運営規定・重要事項・マニュアルなどオリエンテーションしている。2週間は2人体制でフォローしている。毎月30分の勉強会を開催。代表者は必要な研修参加を快く勧めてくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に入会し、研修会に参加し情報を得ている。他市のグループホームへの見学の実施。市内のグループホームと一日交換見学など交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族やケアマネからのご本人情報を揭示し、職員全員が把握し、本人希望や不安を確認し受け止めるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでご家族の希望・不安などを傾聴し把握し、より良い関係作りに務める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に施設見学をして頂き、ご利用者・ご家族に必要な支援を見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者が日常生活動作の出来る事・出来ない事を確認・把握し、出来る範囲で調理や洗濯物・掃除などを職員と一緒にを行う様になっている。歌や昔話などご利用者より学び、共に支え合う関係を作る努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者とご家族の関係の理解に努め、より良い関係作りが出来る様、電話連絡や面会時に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との外出や、親戚や友人などの訪問を歓迎し、希望により居室や居間で歓談できる様にしている。来訪者と一緒に記念写真を撮影し差し上げるなど支援している。	面会時に記念写真を撮影する等、友人・親戚が来やすい環境を作り、継続できるよう支援している。お茶会への参加、編み物、初詣等の季節の行事、利用者が行き来していた場所や習慣が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の認知レベルや性格を考慮し、席替えや手伝いの工夫をしている。利用者間の様子を気を配り、助け合えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後亡くなられたご利用者の葬儀に参列し、お見送りをした。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らし方の希望・意向をご本人やご家族、又、日常生活の中から確認し、日常生活・レクリエーションやリハビリに取り入れている。	利用者、家族から希望や思いを聞き取ると共に、日常生活の中からも意向を把握している。調理・洗濯物の取り扱い等の家事への参加、歌・写生・球技等の好きな趣味を活かしたレクリエーションやリハビリを取り入れるよう努めている。	本人の思いや意向を、記録に残して、ケアプランに反映できるよう検討を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前情報により把握に努めている。又日常生活の中での会話・面会人との会話などにより把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の出来る事・出来ない事、心身状態を日常生活の中の記録・申し送り・カンファレンスにて把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者やご家族の思いを確認した上で、現在の課題についてケア計画を立案し、実践。カンファレンスにて評価・修正している。	月1回モニタリングとカンファレンスが実施されている。関係者による検討、評価により随時見直しを行ない、変化がない場合でも3ヶ月毎に見直されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践などをSOAP方式介護個人記録とし、ケアの実践・結果・気づきに生かせる様努力している。又、体温表に記録し、口頭での引き継ぎをしている。日誌に記録し記録し、確認サインをする等にて周知徹底に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者と家族との随時の外出・友達と会いたい時に職員と外出・家族への電話対応。又外出困難な利用者の散髪は職員が実施するなど対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運動会・防災訓練には町内会の協力を頂いている。ご利用者の誕生会時には地域のボランティア(歌・踊り・楽器演奏など)を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族対応の精神科定期受診時には情報提供書を主治医にお届けしている。内科嘱託医の定期往診や急な発病時の受診など看護師・職員が対応している。	入居時にかかりつけ医を継続できる事を説明し、2名の協力医により月に1~2回の往診支援がある。必要時に訪問歯科診療を受けたり外来受診をしている。外来受診は家族が同行できない時は職員が支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職はご利用の心身の変化が生じた際は随時報告している。6月より訪問看護と契約し毎週1回、定期的に観察し嘱託医に報告している。嘱託医より現場への支持を得るなど共同関係が築けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看護師又は介護職員が病院まで付き添い情報の提供をしている。入院中にも見舞い、担当職員と情報の交換をし、嘱託医に報告もしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の希望・意向を確認し記録している。事業所で出来る事から、最終的な葬儀社の依頼まで確認をとり、必要な物品もそろえている。	入居時に終末期について説明し、家族の希望・意向を確認している。数名の看取り希望者を確認している。協力医の承認や、訪問看護との契約もしており、支援の体制を整えている。看取りについての内部学習会を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故対応マニュアルを作成し、職員全員に周知している。酸素吸入・吸引・意識消失発作時対応などについて勉強会をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は消防署・防災設備会社に年に1回ずつ指導を受けている。自主的に毎月避難訓練を実施している。	平成28年4月消防署立合い、住民が参加し、総合防災訓練を実施。毎月自主避難訓練は出火場所や夜間想定など、設定を変更しながら実施し、水、食料品、長靴、帽子等を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう声掛けや対応・記録に努めている。グループホーム便りの写真掲載についてもご家族の承諾を得ている。	利用者への声かけは、敬意を持って丁寧語で話しかけるようにしている。呼称は「さん」付けを基本としている。その他の場合は家族に承諾を得ている。命令口調や急かさない支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の希望が表出できる様、伺いの言葉かけや分る力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得できる様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が業務をこなす為に”ご利用者を急かさない”ご利用者が自分のペースで自分の力で出来るよう支援する事が大事と心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の着る服や整容・口紅など身だしなみやおしゃれに留意している。ヘアカラーや散髪に関して家族支援のない方には職員が散髪している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜刻み・盛り付け・下膳など一緒に行っている。食べやすい大きさにカットしたり、ミキサー食職したり、ご利用者の召し上がりやすい工夫をしている。	職員が利用者の嗜好を考慮し献立を作り、手作りしている。職員一人が利用者と一緒に食べ、他の職員は見守っている。クリスマスケーキやおはぎ、きのこ汁など、季節行事食と一緒に作り、回転寿司等、外食にも出かけている。	昼食時、職員は立ったまま利用者を見守っているが、座りながら利用者と同じ目線でゆったりと食事ができる雰囲気作りに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食・汁・主菜・副菜・香の物を基本としているが量や刻みなどの形態も個人の状態に合わせている。水分量1000ml/日以上摂取をチェック。体重減少者にはエンシュアを処方して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアしている。歯ブラシやスポンジブラシ等、ご利用者に合った物を選んだり、磨き直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者の訴えの他、排泄パターンを把握し、トイレ誘導・見守りを行っている。夜間頻回の利用者には夜間のみポータブルトイレを設置し、見守りを行っている。	本人の訴えや、しぐさ、排泄チェック表により、誘導している。又、羞恥心を抱かせないよう対応に気を配っている。夜間のみポータブルトイレを設置している利用者もおり、見守っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の散歩や、3回の体操・レクリエーションの他食物繊維を取り入れた食事や水分補給に留意している。排泄チェックにより肛門内確認をしたり、排便困難な方には、緩下剤を処方して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の手合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調に合わせて、入浴やシャワー浴をしている。ゆず湯や入浴時に皮膚を始め全身観察に留意している。	毎日入浴できる体制になっている。毎朝の体操時に声掛けし、希望者を募っている。毎回同じ利用者になる時は、職員が入浴者を調整している。体調によりシャワー浴にする等、対応している。季節の柚子湯等、楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調により安眠や休息への環境作りをしている。消灯後の各部屋の点灯は本人の習慣として支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を投薬箱の側に掲示し、各自が確認できる様にしている。与薬箱をカウンターに置き、与薬後は空き袋を与薬箱に回収し、全員が服薬を確認できる様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の出来る方には職員と一緒に野菜刻みや盛り付け・洗濯物干し・たたみ又テーブル拭きなどをして頂いている。趣味のお絵かき・カラオケ・散歩・ボールのレクなど個々の楽しみごとをレク・リハ・生活に取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎朝の周辺散歩の他、季節ごとの花見・紅葉・祭・神事・外食行事など支援している。ご家族と食事や理髪・美容室に出かける方もいる。	散歩や庭の芝生・デッキでお茶休憩をし、日常的に陽や風・季節を感じられる機会を作っている。季節の行事(花見・紅葉狩り・恵比寿講等)や家族と外食や理・美容院に出かける利用者もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用は小額のお金を所持しており、お地藏様参りや初詣で時にお賽銭として、又、お孫さんが来訪された時にお小遣いをあげる事を楽しみにされ使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、ご家族に宛て年賀状を書いて頂いている。電話を掛けてほしい希望がある場合は取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに飾りつけを利用者と一緒に作りフロアや玄関に飾りつけている。(羽子板・書き初め・繭玉・若葉・七夕・風鈴・紅葉・塗り絵など)廊下手すり側に物を置かない。室温・湿度を時間ごとに測定し記録し環境を整えている。	共用空間には、テーブルが2ヶ所配置され、ソファがサンデッキに向けて置かれている。利用者と一緒につくった季節の飾り付けがされている。廊下は利用者がリハビリを兼ねて歩行できる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の本人用の椅子・ソファの他、東西の共用スペースにソファがあり、自由に利用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外は本人が自宅で使用されていた馴染みの家具(箆笥・イス・仏壇・衣桁など)を用意し使用されている。ご利用者の自立度に合わせて低床にしたり支援している。	利用者は、それぞれ馴染みの物や好みの物(箆笥・椅子・テレビ・仏壇・位牌等)を持ち込み、安心して過ごせる居室作りをしている。居室は障子を設えてあり、落ち着いた雰囲気がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見守りや戸御にて、出来る事・分かることを確認し出来る事・分かることは見守り、出来ない事や若分からない事に対し支援している。職員が行った方が早い、早く終わらせようとする姿勢が見受けられた場合は注意をしている。		